

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県北会場>

科目 ⑭安全対策・緊急時対応

- ◆ 安全指導のうち「ちょ、きん、さ」の法則を初めて知った。ちょっとストップ、きちんと説明、さっと再開。まさにその通りだと思い、実践したいと思った。事故を未然に防ぐためには、環境把握、危険予測、安全指導が大切であること、また、発生時には最小限にとどめることや、冷静に落ち着いて対応することなど、手順や心構えを知ることができた。
- ◆ 三つの眼（鳥の眼、虫の眼、仲間の眼）で多角的に見ることの大切さや子どもたちへの伝え方として「ちょ、きん、さ」の法則も知り、日頃から気を付けていきたいと思った。また、子どもの安全対策として、ヒヤリハットの重要性を改めて感じたので、日頃から危険なところはないかアンテナを張って気付けるようにもしていきたい。アレルギーや災害、不審者など、万が一に備えて対応できるように情報を共有し、対処を確認しておくことも大切であると感じた。
- ◆ 子どもの安全を一番に考え、日頃から事故やケガを防ぐ工夫が求められると思いました。教室内などの危険箇所を確認したり、避難経路を把握したりするなど、日常の準備が大切だと思いました。また、緊急時には落ち着いて状況を判断し、子どもたちの安全を守る行動が必要だと思いました。支援員同士が連携してどんな時でも子どもたちが安全に安心して過ごせるように、常に意識をもって支援していきたいと思います。
- ◆ 子どもの事故防止には、安全管理と安全教育が大切である。大人の目線で環境整備を行い、事故を予測しながら遊びの流れに注意しなければいけないと感じた。また、子どもたちに対しても、自分で身を守る判断ができるように日常活動の中で随時指導していかなければならない。支援員として安全対策、緊急時対応も戸惑うことなくできるよう職員間の日頃の訓練も必要だと思う。
- ◆ いろいろな災害に備えて定期的な訓練が必要であること、また子どもの事故やケガについては、そのマニュアルを作成し職員間で共有していくことが大切であると理解できた。行事等の体制が整わない状況等、少しでも不安を感じた場合は中止することもやむを得ない。リスク面のみを考慮すると活動の魅力が失われてしまうこともあるが、小さな事故が大きな事故に繋がってしまうという意識をもちながら、子どもたちが安全に生活できるよう配慮していきたい。